



業界レポート

パルプ・紙・紙加工品 製造業

産業分類コード14

あなたの会社の **e-審査部**®
リスクモンスター株式会社

市場概要

(1) 営業種目

- ・紙製造業(洋紙製造業・板紙製造業等)
- ・パルプ製造業
- ・加工紙製造業
- ・紙製品製造業
- ・紙製容器製造業 他

(2) 業界規模

6兆4,960億円

上場企業数 28社

非上場企業数 6,367社

(3) 業界サマリー

・パルプ・紙・紙加工品製造業(以下、製紙業)は、次の4つの用途に分けられる。

- ①印刷・情報用(印刷用紙、新聞用紙等)
- ②包装用(段ボール原紙・クラフト紙等)
- ③衛生用(トイレトペーパー・ティッシュ等)
- ④工業用(機能紙・絶縁紙等)

・日本の製紙業界においては、王子ホールディングス(以下、王子HD)と日本製紙が二大メーカーであり、以下、大王製紙、レンゴー、北越紀州製紙が続いている。この中で、レンゴーは板紙に特化しており、同業界では、王子HDに次いで第2位のシェアである。

・製紙関連企業は、木材チップから、パルプ・製紙一貫生産を行う、王子HDや日本製紙のような大企業から、紙製品、紙製容器等の二次加工品製造を行う、中小企業・零細企業まで、多数の企業が全国各地に点在している。

(業界の特徴)

・製紙業の特徴として、以下の4点があげられる。

- ①技術開発・改良の要素が乏しく、他社との商品の差別化が難しい成熟商品である。
- ②典型的な装置産業であり、設備投資効率の向上が必須となっている。
- ③単位量あたりの価格が低いため、輸送・エネルギーコストがかからない、地産地消が主流である。
- ④資源循環型産業の他の産業と比較して、製品のライフサイクルが短い。

ビジネスモデル

【製紙業の流通構造】

総合製紙メーカー自体は、販売機能を持たず、その下の卸売業者が販売を担っており、一次卸売業者である「代理店」から、地方ごとに商圏を持つ二次、三次の「卸商」に卸される構造となっている。

【製紙業の製造プロセス・コスト構造】

製紙原料であるチップは、約7割を輸入に依存している。主に、針葉樹チップを米国・カナダの北米から、広葉樹チップをベトナムなどの東南アジアから輸入している。

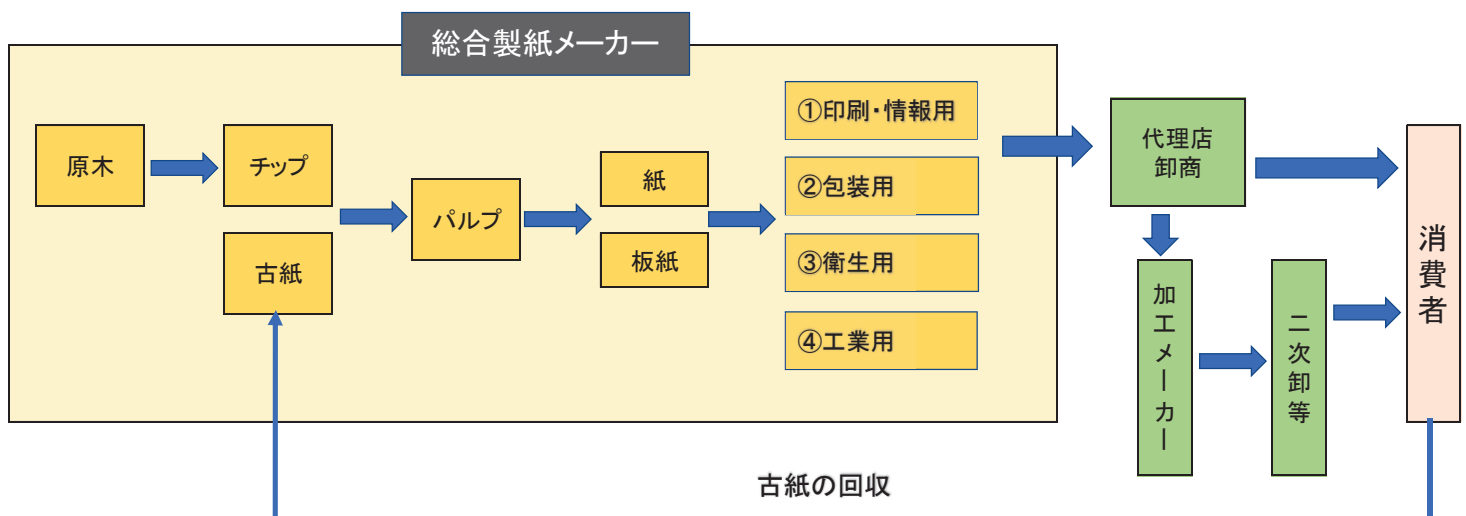
製紙業では、古紙と木材(チップ)、さらにパルプを原料に、それぞれを単独で用いたり、または配合したりしながら、各種の紙・板紙製品を生産している。原料の内訳は、約6割が古紙、約4割が木材(チップ)である。

最終製品価格の原料費および燃料費が、約40～45%を占める。原材料である木材を輸入に依存していることから、原油価格や為替などの影響を受けやすい。

単体量あたりの製品価格が低いため、輸送・エネルギーコストを下げるため、地産地消が主流であり、各社とも日本国内の売上高が7～9割を占めている。事業の中心としては、紙・板紙だが機能紙や家庭紙(トイレトペーパー等)の、利益率がやや高い。

製紙業は、資源循環型産業であり、行政を中心に古紙回収システムが確立が確立されている。古紙回収率は約80%と、高水準で推移している。

製紙業界ビジネスモデル



業界動向

木材チップからパルプ・製紙一貫生産を行う、王子HDや日本製紙のような大企業においては、大量生産に必要な広大な工場用地が必要であり、さらに水資源の確保が容易で、輸入木材チップの搬入に便利な港湾機能の確保が重要となってくる。製紙産業の集積地域としては、北海道(苫小牧市、釧路市等)、静岡県(富士市等)、愛媛県(四国中央市等)があげられる。

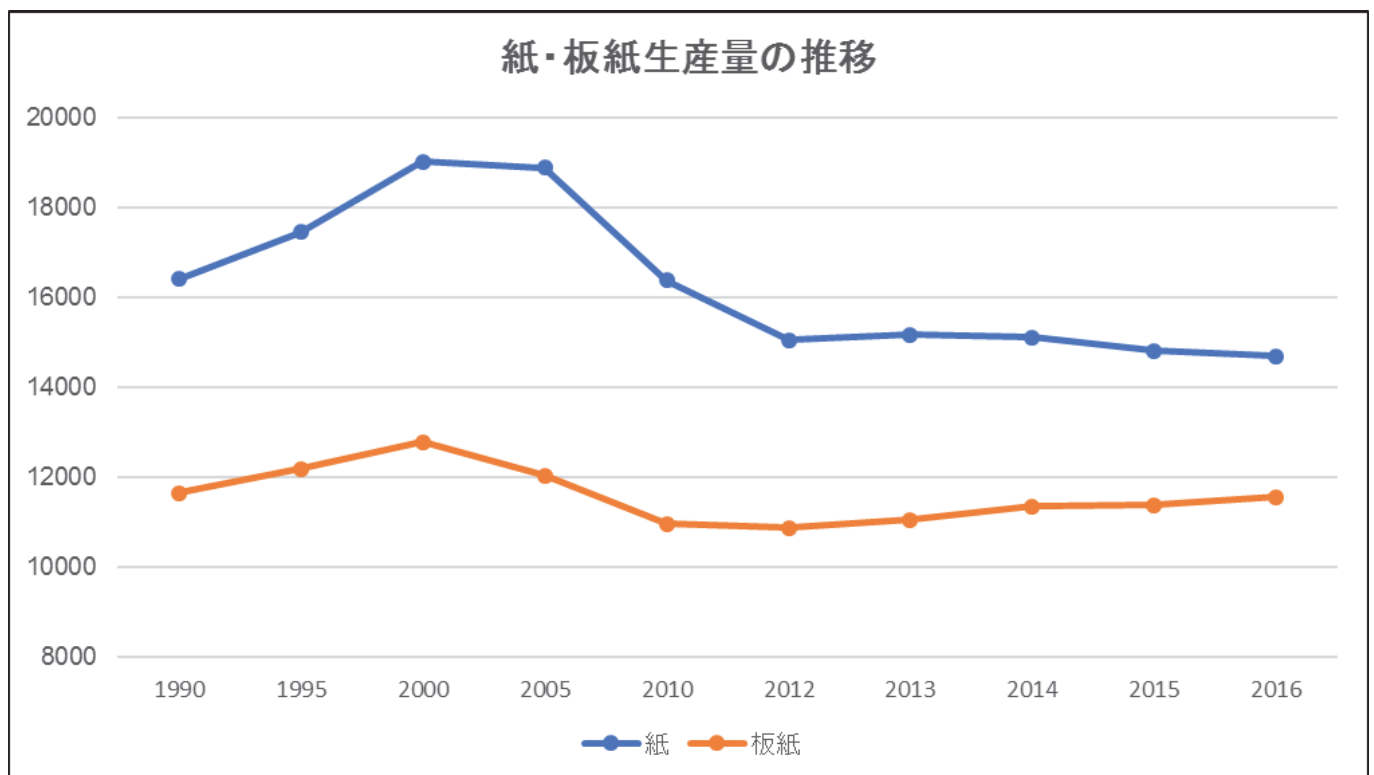
一方、印刷用紙や紙製品・紙製容器等の二次加工品製造を行う企業は、顧客に隣接した都市近郊に立地しているケースが多い。

近年では、インターネットの普及によって、様々な分野でペーパーレス化が進み、紙の需要は減少傾向にある。特に洋紙は、新聞など紙メディア市場減少やデジタル化が響き落込んでいるものの、板紙は、ネット通販拡大による段ボール需要が底堅く推移している。

・製紙業の生き残り戦略として、以下の3点があげられる。

- ①設備過剰による構造的な課題の解消と競争力の強化を目的とした、事業再編や業界再編
- ②ペーパーレス化による国内需要の縮小から、ASEANやオセアニア等の成長市場への展開
- ③低炭素社会、循環型社会の構築を目指し、高度バイオマス産業(*)の創造

*高度バイオマス産業とは、バイオ燃料事業、バイオ化学品事業、セルロースナノファイバー事業等をいう。



経済産業省 紙・パルプ統計

財務指標分析

業界標準値
比較業界: 製造業全体

(安全性分析)

パルプ・紙・紙加工品製造業(以下、製紙業)は、装置産業であるため、多額の設備投資が必要であり、製造業全体と比較して固定比率が高くなっている。

また、装置産業であることから設備投資を継続して行う必要があり、金融機関からの借入が増加しやすい。借入依存度は製造業全体よりも高く、自己資本比率、流動比率などの安全性指標はやや低水準にある。

(収益性分析)

製紙業の利益率は、製造業全体と比べ低い水準になっている。これは、単体量あたりの価格が低いことが要因であり、コスト管理が重要な業種であると言える。

(効率性分析)

製紙業の設備投資効率は低水準であり、紙需要が減少する中、設備過剰という構造的な課題を抱えている。事業再編、さらには業界再編による業界全体の競争力の強化が必要となっている。

| | | パルプ・紙・紙加工品 | 製造業 |
|------|--------------|------------|-------|
| 安全性 | 自己資本比率(%) | 37.3 | 45.3 |
| | 流動比率(%) | 128.5 | 146.7 |
| | 固定比率(%) | 158.0 | 112.1 |
| | 借入依存度(%) | 37.1 | 25.0 |
| | 配当性向(%) | 35.2 | 45.5 |
| 収益性 | 売上高営業利益率(%) | 2.2 | 4.2 |
| | 売上高経常利益率(%) | 2.8 | 5.9 |
| 資本効率 | 売掛債権回転期間(ヶ月) | 1.2 | 2.3 |
| | 棚卸資産回転期間(ヶ月) | 2.5 | 1.2 |
| | 総資産回転期間(ヶ月) | 0.9 | 0.9 |
| | 設備投資効率(%) | 41.2 | 79.2 |

財務省: 法人企業統計調査

与信管理のポイント

製紙業界は、王子HDと、日本製紙グループの二大グループを中心に少数のグループに集約されており、取引に際しては、いずれのグループに属しているかの確認が必要である。

製紙業は、典型的な装置産業であり、需要が減少傾向にある中、設備過剰による構造的な課題を抱えている。事業再編、さらには業界再編による業界全体の競争力の強化が必要である。M&Aを含む(事業・業界)再編や、海外進出等の戦略について把握しておくことが必要である。

「財務指標分析」で記述したように、製紙業界全体として自己資本比率、流動比率などの安全性は、やや低水準にあり、収益性も、同様に低い水準となっている。

原料費や燃料費などの割合が高い一方、収益性が低いため、キャッシュフローが不足しがちである。在庫リスクも高く、在庫を適正に評価し、過剰在庫や不良在庫の有無を確認することが必要となる。

紙・紙加工品は、商品のライフサイクル面から考慮すると、成熟商品であり、他社製品との差別化が困難であり、商圏が限定されていることから、急激な売上増加による収益向上は見込みにくい。したがって、生産性の向上や、流通の合理化等に伴うコストダウンにより、収益性向上の効果が出ているかの確認が必要となってくる。

装置産業である製紙業は、多額の設備投資が必要である。また、現有設備の改修投資、古紙利用率向上のための投資、環境保全投資、合理化・省力化投資、物流合理化投資等の設備投資が必要となる。したがって、設備投資に対する資金計画は適切か、確認することが重要である。

業界課題への取組みとしては、古紙利用の工場、ダイオキシン対策等の環境問題、省エネルギーへの取組みがなされているか、把握しておくことが必要となる。

参考資料

財務相：法人企業統計

<http://www.mof.go.jp/pri/reference/ssc/results/>

総務省：「平成26年経済センサス-基礎調査」

業種別審査事典(一般社団法人 金融財政事情研究会)

業界地図(業界地図 2016年版：東洋経済新報社)

免責事項

リスクモンスター株式会社(以下、当社)は当コンテンツに掲載されている情報の正確性について万全を期しておりますが、当社は利用者が当コンテンツの情報をを用いて行う一切の行為について何ら責任を負うものではありません。